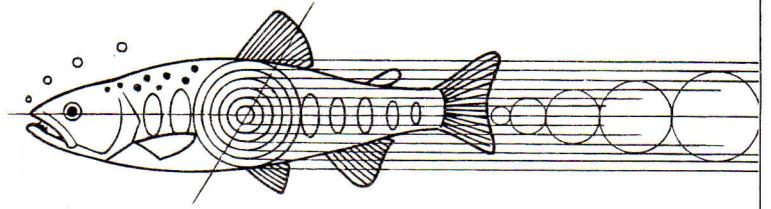
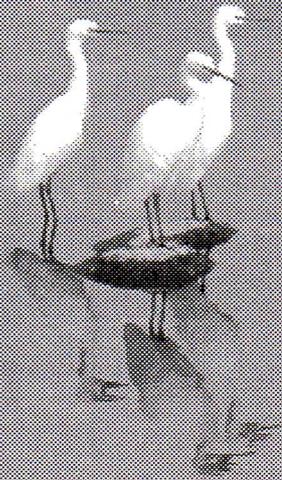


news

長良川市民学習会ニュース



長良川に徳山ダムの水はいらない。



No.8

2010年5月10日

表紙・目次(写真は長良橋から俯瞰)……………P.1

最近の情勢と活動報告……………P.2~7

校歌に歌われた長良川、事務局より……………P.8

6月5日(土)・6日(日) **市民による豊かな海づくり大会** 開催

長良川市民学習会など9団体が共催 ■会場：長良川国際会議場他

最近の情勢と活動報告

「凍結」の名のもとで税金投入が続く徳山ダム導水路事業

有識者会議の発足

徳山ダム導水路(木曾川水系連絡導水路)事業は、昨年の新政権発足のもと「凍結」が決定しました。国土交通省は徳山ダム導水路事業など全国で89のダム事業を再検証するとして「今後の治水対策の在り方に関する有識者会議」を設置し、今夏に中間とりまとめを行い来年夏に提言を出すとしています。しかし新年度予算では「凍結」「検討」「新たな段階には入らない」という名の下で新政権は徳山ダム導水路事業に対し5億円の環境調査費を計上しました。

徳山ダム導水路事業は市民にまともな説明もされずに進められており、多くの市民が事業目的そのものに疑問を持っています。事業を進めることを前提にした環境調査費の計上は認められるものではありません。速やかに一切の事業費の投入を中止し事業の再検討を行うべきです。それが本来の事業の凍結です。

国交大臣の下に設置された「今後の治水対策のあり方を検討する有識者会議」では導水路事業の最大目的である「環境改善のための補給(流水の正常な機能の維持)」についての再検討がなされる予定はありません。また、同会議の委員の選び方や会議の非公開はマスコミからも厳しい批判が寄せられています。政権スタート時とうって変わった前原国交大臣の姿勢に無駄なダム建設に反対してきた国民はいま大きな不安を感じています。

名古屋市導水路負担金支払う

ちょうど1年前「徳山ダム導水路事業からの撤退」を表明し事業の負担金を拒否してきた河村名古屋市長も今年1月「建設費ではない」ことを理由に事業負担金を支払うことを決定するとともに、新年度の事業負担金も支払う予定で国の流れに乗ろうとしています。「凍結」の名の下でムダにムダを重ねる事業にずると税金が投入され続ける最悪の構図が作られようとしています。

長良川市民学習会は、「導水路事業の即時中止」を前原大臣に訴えるために、愛知県に対し「徳山ダム導水路事業への公金支出差し止め」を求める裁判でたたかう「導水路はいらない!愛知の会」と共同で3月9日国交省中部地方整備局に要請行動を行いました。当日は雨でしたが整備局前で

< 最近の動き—2009年5月~2010年4月 >

- 2009・5月 名古屋市長、導水路から撤退表明
- 7月 愛知県に対する「公金支払い差し止め住民訴訟」第1回裁判
- 9月 民主党・前原大臣全国のダム見直し発表
- 10月 第8回市民学習会で今本博健先生講演
- 12月 市民による「豊かな海づくり大会」呼びかけ
国交省「有識者会議」を設置
- 2010・1月 市民による「豊かな海づくり大会」実行委員会発足
名古屋市2009年度分導水路負担金支払いを決定
- 2月 岐阜市長候補へ公開アンケート実施
プレイベント・長良川下流域で「稚アユ調査」実施
- 3月 国土交通省中部地方整備局へ大臣宛要請書提出
- 4月 プレイベント「長良川河口堰でヘドロを見る会」実施

「市民による「豊かな海づくり大会」の開催内容を協議する出席者ら—岐阜市板本町、じゅうめくプラザ



長良川河口堰「せき」紹介して、多くの人にのゲート開放を求める。長良川の河川環境に理長良川流域の市民グループを深めてもらう。17日、市民による「豊 豊、愛知両県の市民クかな海づくり大会」ループやNPO法人なを岐阜市長長福光の長とで構成。長良川市民良川国際会議場で開催。学習会代表の粕谷志郎は第1回大会を岐阜 湯を守る会の辻淳夫会市内で開き、大会内容 長が呼び掛け人となり、昨年12月下旬に準河口堰への批判を前 確を充足した。面に出すのではなく、第1回大会は、約10川漁師の声や川がはぐ 団体の代表者ら15人がくむ流域の風土などを 出席して開かれ、6月

市民団体独自で「海づくり大会」

6月5、6日 講演など開催

5日に基調講演とシンポジウムを、同6日に川と水と触れ合うイベントを開くことなどを決めた。

2010.1.20 岐阜新聞

の宣伝行動には、岐阜・愛知の仲間約20名が駆けつけ市民に訴えました。長良川市民学習会はこれにあわせて前原大臣宛の「長良川河口堰のゲートの試験開放を求める要請書」を手渡しました。

高まる「長良川を守れ！」の世論

岐阜市長選挙候補者アンケート

去る2月7日の岐阜市長選挙で導水路事業や長良川河口堰のゲート開放について市民議論となるよう長良川市民学習会は三候補者に対し「長良川を守るアンケート」を行い、回答を公開しました。回答は驚くことに今まで国や県に追随する姿勢を示していた現市長を含めて全てが「導水路の水を長良川に放流すること」に「許さない」又は「慎重に検討」の回答を寄せました。また、「河口堰のゲートを開放すること」には「開放すべき」又は「試験的にゲートを上げる」との回答でした。

「長良川に徳山ダムの水はいらない!」「長良川河口堰のゲートを上げよ!」の岐阜市民の根強い世論を反映したもので私たちを勇気づけました。

市民による「豊かな海づくり大会」の成功めざして

岐阜県は今年6月に「清流がつなぐ未来の海づくり」をテーマに第30回全国豊かな海づくり大会を長良川を舞台に開催します。官民のあげでの取り組みをめざしていますが、川と海のつながりを断ち切った河口堰の実態には一貫して目を反らしています。一方これにあわせ新聞各紙は昨年から特集を連載しています(中日新聞『「アユ」は語る』、岐阜新聞『ぎふ海流』、読売新聞『長良川』等々)が河口堰や水源の山の実態など現場に密着した興味深い記事となっています。長良川市民学習会に参加された研究者や市民団体も多数登場され内容を盛り上げています。

長良川市民学習会は河口堰のゲート開放こそ豊かな海づくりにつながることを訴えるために、市民による「豊かな海づくり大会」を開催することを呼びかけました。呼びかけは当会代表の粕谷志郎と藤前干潟を守る会代表の辻淳夫さんが昨年12月に行い、現在流域の約10団体で実行委員会を結成し取り組みを具体化しています。本大会は6月5・6日長良川国際会議場を中心にして開催します(内容は、朝日新聞意見広告やチラシをご覧ください)。第1日目は源流から海から何が起きているか討論し考える企画としました。大会2日目は、川に触れ、川と遊ぶ楽しいイベントの日としました。是非誘い合ってご参加ください。

これまで実行委員会はイベントとして2月7日寒風が吹く中「稚アユ調査」を河口堰周辺で2艇の船を出して行いました。また、4月25日には「長良川河口堰でヘドロを見る会」を3艇の船に26名の参加で行いました。この企画の発端は「河口堰川底の実態を河川工学者の立場から確認したい」という今本博健先生の意向にありました。長良川河口堰上下流とも川底は真っ黒なヘドロで覆われていました。すぐ隣の揖斐川から採取したものは砂のままでその違いがはっきり分かりました。河口堰上流側のヨシ原は既に9割が消滅しました。この調査中にも浮き上がりながら歯抜けになって行く群落の無惨な様が見られました。



2010. 4. 25 長良川河口堰でヘドロを見る会

悲惨な実態を見て先生も驚かれ「これはもっと多くの人に知ってもらわなければ」との声をあげられました。同行した多くのマスコミ陣も驚きを隠さない報道をしました。

今年10月には名古屋市において生物の多様性を議論するCOP10が開催され世界の人々が集まります。しかし、この地域では生物の死が広がる状況があります。海と断ち切られ汽水域を失った長良川にも徳山ダムの冷たい水が流されれば取り返しがつかないことになるでしょう。新政権が揺れる中で予断を許さぬ情勢にありますが、「導水路事業は直ちに中止し、速やかに河口堰のゲートを上げよ!」は揺るがぬ多数派の声です。この声を止めることなくもっと広げ国・自治体に届けましょう。

ダム先送りに戸惑い

中部のダム予算

名称		09年度	10年度	総事業費	完成予定	事業判断
設楽ダム	愛知	19.9	27.6	2070	20年度	再検証
木曾川水系連絡導水路	岐阜	18	5	890	15年度	〃
新丸山ダム	岐阜	22.2	9.3	1800	16年度	〃
横山ダム再開発	岐阜	20	12.4	360	10年度	継続
川上ダム	三重	38	17	1230	15年度	再検証
三峰川総合開発	長野	5.5	3.6	1080	未定	継続
足羽川ダム	福井	13.1	7	960	20~30年後	再検証
大戸川ダム	滋賀	5	7.7	1080	未定	〃
丹生ダム	滋賀	6.2	3.6	1100	未定	〃
利賀ダム	富山	22.1	18.7	1150	22年度	〃
天竜川ダム再編	静岡	9.6	9.5	790	23年度	継続

※単位は億円

予算案決定

しっかり議論して

再検証「地域の意見を」

政権交代後、初めてとなった鳩山政権の二〇一〇年度予算案。「止まらない公共事業」の象徴だったダムは中部地方でも軒並み再検証の対象になり、事業に事実上の「待った」がかかった。地元自治体の担当者は「地域の意見を聞いてほしい」などと存続を強く求める一方、建設反対派からも結論先送りに戸惑いの声が漏れた。

岐阜県揖斐斐川町の徳山ダムでためた水を愛知県に送水する木曾川水系連絡導水路は、環境調査名目で五億円が盛り込まれたが、本年度に続く二年連続の凍結。

愛知県の片桐正博地域振興部長は「導水路はダムから水を取るためのホース。ほかのダム事業とは性格が異なる、再検証の対象となるのは違和感がある」といふ。ただ「予算が付くなら、事業は止まっていけないと前向きに考えたい」と力を込めた。岐阜県幹部も「マイナスとは思わない」とした上で「有識者会議でしっかり議論していただいたい」。

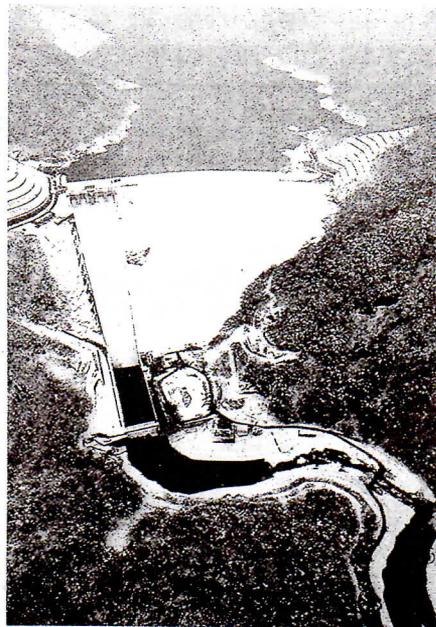
と要望。「渇水対策と中止を求める会(岐阜県大垣市)の近藤ゆり子事務局長は「凍結は当然」としながらも、予算計上について「ずるずると払い続けるのはもったいない。思い切った決断をしてほしい」と話した。本体工事を前に、川の流れを変える工事が粛々と進む三重県伊賀市の川上ダム。既に水没地区の三十八世帯の移転が完了し、内保博仁伊賀市長は「国が責任を持って進めてほしい」と主張。「中止となれば、移転した住民の希望を聞き、治水、利水両面の代替案も示してほしい」と強調した。

設楽地区「早く決めてほしい」

愛知県設楽町の設楽地区に住む無職の男性(五十)は「中止か継続か早く決めてほしい」という立ちを隠さない。同県は、町内外の集団移転先三地区で年明けにも造成を始める予定。移転を強いられる世帯への感謝見舞金も全百二十四世帯の半数以上で交付が決まった。結論が先送りされたことにより、何月何日までに決まらないうちに「あの手この手で吐き捨てるように言った。十月の町長選でダム事業推進を掲げて当選

河村市長 見直しは歓迎

今年四月の就任直後が大事」と話し、国に、木曾川水系連絡導水路事業からの撤退方針を表明し、是非をめぐる議論に火を付けた格好の河村たかし古屋市長は、「政権が交代したのだから、一度決めたことでも本論は尽くされている」と首をかしげ



再検証となった木曾川導水路に水を供給する徳山ダム。22日、岐阜県揖斐斐川町で、本社へ「おおっる」から



設楽地区「早く決めてほしい」

「再検証となるのは予想していた」と冷静に分析。ただ「計画から三十六年間、議論を尽くす必要と判断しは」と力を込めた。

「と強調、今後の議論で地元の意向に最大限配慮するよう国に求めた。一方、豊川下流の同県豊橋市の佐原光一市長と田原市の鈴木克幸市長は、ともに「ダムは必要と評価される

木曾川水系連絡導水路

岐阜県揖斐斐川町の徳山ダムでためた水を木曾川へと流す全長43キロ、直径4メートルの地下トンネル。木曾川で愛知県と名古屋市の生活用水や工業用水として取水する。総事業費890億円は国と東海3県、同市が負担。2009年度に着工する予定だったが、鳩山政権が凍結していた。

導水路調査費 5000万円負担へ

名古屋市長

徳山ダム（岐阜県揖斐川町）の水を木曾川まで流す「木曾川水系連絡導水路事業」について、名古屋市長は「一日、本年度の市負担分五千万円を支払う」とを決めた。本年度分に建設費が含まれないため、河村たかし市長も了承している。

河村市長は、就任直後の昨年五月に「水余り」を指摘し、事業からの撤退を表明。事業主体の水資源機構に対し、本年度の市負担分一億六千万円の支払いを拒否してきた。事業は本年度の着工予定だったが、新政権は建設の是非を再検証する方針。当初十八億円の予定だった本年度分の支出も「環境リポート」の作成など環境調査費五億円に縮小する見通しとなった。国は二〇一〇年度予算でも、環境調査費五億円を計上しているが、市は、内容を精査して支払いの是非を判断するとしている。



徳山ダム導水路は不要だ

大牧 富士夫 郷土史家



新規利水のメド立たず

この6月に「全国豊かな海づくり大会」が岐阜県内で開かれるという。今年のテーマは「清流が つながる未来の海づくり」というが、「清流」「岐阜」と言うならば、県内にある清流のむごい現状について厳しく考えてほしい。身近な例をとれば、県内を流れる揖斐川には、国内最大の貯水量をもつ徳山ダムがある。08年5月から本格運用されたが、今のところ新規利水のメドは立っていない。

1957年の計画以来、建設の歳月に事業計画を見直す時はあったが、なぜか立ち止まることはなかった。先ごろ県は、総事業費のうち県民の負担額は940億円に上ると発表した。これをかけて巨大な導水路をつくる。一般会計、つまり税金から結局支払われていく。徳山ダムは凍結され、計画を見直すのは将来にわたって売れ残り、この金食い虫はもろに



徳山ダム 岐阜市

「できるだけダムにたらない治水」への政策転換で、新年度全国のダム事業百二十六のうち八十九が再検証される。掛け声だけに終わった過去の轍を踏まず、今度こそ抜本的見直しを求める。

冷たい水である。その汚れた水が、これから莫大な力ネをかけて導水路をつくらせて流されると聞くのはつらい。ダムの水が厄介もの扱いされ、故郷の溪谷が汚泥に埋まり、そこにたまった汚れた水が下流に流されるなど聞く、心も悪い出が踏みこじられるようである。確かに、ほぐら旧村民は補償協約に調印して村を出た。なぜ拍まなかったかと問われると、答えに窮してしまふ。過去は残酷である。ほぐらは知県と名古屋市の利水のため、長良川経由で木曾川に水を流す木曾川水系連絡導水路の建設を計画。同市の河村たかし市長は昨年5月、導水路事業からの撤退検討を表明した。その後、政権が交代し、前原誠司国土交通相は国直轄の09年度事業停止を発表。導水路事業も凍結された。

「できるだけダムにたらない治水」への政策転換で、新年度全国のダム事業百二十六のうち八十九が再検証される。掛け声だけに終わった過去の轍を踏まず、今度こそ抜本的見直しを求める。

河川の治水対策には、川の断面積を大きくする河道掘削、堤防のかさ上げなど強化、放水路や遊水地整備、水源地域の森林保全の手法もある。最近ではダムが土砂の流出を止め、河口付近の海岸を浸食させたり、異常な局地集中豪雨時の放水で下流に危険を招くと心配する有識者会議」だが、九人の委員はダム推進派が目立つと批判が強い上、会議は非公開だ。行政刷新会議の「事業仕分け」同様に議論の経過を全面公開して、検証の公正さが納得されるよう。

おゆまき・ふじお 1992年、岐阜県の旧徳山村生まれ。教員生活の傍ら、徳山村史の執筆に携わる。85年、村外へ移転。著書に「徳山ダム離村記」など。

(平成22年) 1月12日(火曜日)

ダム事業再検証

八十九のうち三十一は国、水質改善など強化、放水路や遊水地整備、水源地域の森林保全の手法もある。最近ではダムが土砂の流出を止め、河口付近の海岸を浸食させたり、異常な局地集中豪雨時の放水で下流に危険を招くと心配する有識者会議」だが、九人の委員はダム推進派が目立つと批判が強い上、会議は非公開だ。行政刷新会議の「事業仕分け」同様に議論の経過を全面公開して、検証の公正さが納得されるよう。

見える「有識者会議」に

「見える」有識者会議は今夏に中間取りまとめを公表、それを基に各地で個別ダムの具体的な検討にかかると見られる。有識者会議が基準を示し、流域の関係者の意見を求めること予想される。事業者が出さなかったデータを含め資料をすべて開示し、行政や特定の立場の字音のみならず、隠れていた住民の声も広く聴き、事業の行方を決めるべきであろう。

「見える」有識者会議は今夏に中間取りまとめを公表、それを基に各地で個別ダムの具体的な検討にかかると見られる。有識者会議が基準を示し、流域の関係者の意見を求めること予想される。事業者が出さなかったデータを含め資料をすべて開示し、行政や特定の立場の字音のみならず、隠れていた住民の声も広く聴き、事業の行方を決めるべきであろう。

社説

明日へ 2.7 岐阜市長選

異常湧水時、揖斐川町の徳山ダムの水を長良川や木曾川に放流する木曾川水系連絡導水路事業の推進について、来月7日投開票の岐阜市長選挙に出馬予定の3

市民団体が 3氏に聞く

氏がいずれも反対か慎重な見解を持っていることが27日、市民団体「長良川市民学習会」のアンケートで分かった。

(竹田佳彦)

導水路事業

いずれも反対か慎重論

対象は二期目を目指す現職の細江茂光氏が「影響を十分に調査・検討し、慎重に決めていくべきだ」とを表明した名古屋市の博氏(四)の三氏。

長良川への放流について「環境改善に役立ち歓迎する」と答えた人はなく、大西氏が「悪化が懸念され、放流は認めない」。浅野氏は「事業見直しを

対象は二期目を目指す現職の細江茂光氏が「影響を十分に調査・検討し、慎重に決めていくべきだ」とを表明した名古屋市の博氏(四)の三氏。

河村氏は反対表明を

細江氏 影響を調査し検討 浅野氏 事業の見直し図れ 大西氏 悪化懸念、放流ため

ることを条件として(河村氏)「浅野氏の決起集会に応援弁士として登壇。岐阜、名古屋市の連携を呼びかけた。浅野氏は反対を明言せず「市民と議論をしていきたい」と話

条件に細江氏陣営の応援に訪れる計画もあったが、細江氏側が難色を示し実現しなかった。細江氏は「国の調査や協議を見守りたい」と話している。

河村氏は反対表明を

摘。「当選後の新市長の発言を注視していく」と話している。

会の武藤仁事務局長は「事業主体は水資源機構だが、岐阜市の土地を通過して長良川に放流するため、実際の放流調査をするべきだ影響を受ける」と指



導水路問題で 市民団体アンケート

立候補予定者に

徳山ダム(揖斐川町)の水を長良川を經由して木曾川に流す「木曾川水系連絡導水路事業」

業」について、市民団体の長良川市民学習会は27日、岐阜市長選(31日告示、2月7日投票)の立候補予定者に対して行ったアンケートの結果を公表した。

で市民コンセンサスをつくりたい。事業の見直しを図るべきだ」と直した。大西氏は「環境悪化が懸念され、放流は認めない」とした。長良川河口堰のゲートを開放することの適否については、細江氏は「試験的ゲート開放を実施し、水利用・塩害などへの影響調査を

2010.1.28 毎日新聞

2010.1.28 中日新聞

(第3種郵便物認可)



長良川河口堰の上流で採取したヘドロを見る参加者ら＝三重県桑名市で

河口堰酸欠で「死の海」

長良川 環境団体がヘドロ調査

東海二県の環境団体 異臭を放つヘドロが採 直視しよ」と結成。 なでつくる一市民に 取られ、参加者は船上 からゲート開放を訴え 大会、実行委員会」は た。 同実行委は、六月に としてヘドロを見る会 を企画した。

市の長良川河口堰周辺 第三十回全国豊か で「ヘドロを見る会」 る「第三十回全国豊か な海づくり大会」に合 わせて「河口堰問題を二カ所、上流一カ所

長良川河口堰付近の河床のヘドロを観察する参加者＝25日 午前11時43分、三重県桑名市長島町、長良川河口堰上流



河口堰の環境考える

長良川で 市民団体 河床のヘドロ採取

岐阜 愛知西隣の市 ていくため、岐阜大 民グループで構成する 地域科学部の粕谷志郎 教授と一藤前干海守 海づくり大会」実行委 員会」は25日、三重県 桑名市長島町の長良川 河口堰(せき) 上下流 で河床環境を調べ、堆 積(たいせき)している ヘドロを観察してい る。 実行委員会は市民の 目線で河川環境を訴え

と、河口堰のない損斐川河口一カ所の計四カ所の川底の泥を採取し、比較した。

長良川の三カ所の泥はいずれも、含有酸素量を示す「酸化還元電位」の数値がマイナスで酸欠状態。真つ黒で粘性の高いヘドロがほとんどだった。一方、損斐川の川底はすべて損で酸素が豊富。生きやマトシジミも確認された。

岐阜大の粕谷志郎教授(環境生態学)によらると、堰上流には川から流れてきた有機物が堆積。堰が海水と淡水を分離したため、堰下流ではゲートを超えた比重大の軽い淡水と、重い海水が層を形成。底に新しい酸素が行き渡らず「酸素が必要な生物が生きられない死の海」になっているとい

参加した。参加者は3隻のボートに分乗し、河口堰の下流と上流、河口堰横の損斐川の計4地点で河床の堆積物を採取。損斐川の採取地点では砂地にヤマトシジミの生息が確認されたが、長良川の河口堰上下流の採取地点ではヘドロのみで貝類は確認されなかった。

粕谷教授は「長良川河口堰が河川環境に悪影響を及ぼしている」と語り、「全国豊かな海づくり大会を契りある大会にするために、長良川の現状に目を向けて」と参加者に呼び掛けた。

また、今本名教授は「河川工学者は治水や利水だけでなく、もっと環境に目を向けるべき。水資源機構は市民団体との環境調査や対話に積極的になってほしい」と語っていた。(潮見井芳信)

へドロを観察し 環境悪化考える 長良川河口堰で市民ら 関市などで6月、長良川を主役、「全国豊かな海づくり大会」が開催される



豊かな海へ

のを前に、市民団体が25日、「長良川河口堰でヘドロを見る会」を三重県桑名市内で行い、環境悪化を確認した。同大会は豊かな海づくり大会」実行委員会(岐阜市)は、河口堰を開放すれば豊かな長良川に戻る」と話していた。

河口堰は河口から5・4キロの場所にある。参加者は船で4地点で、隣の損斐川と長良川の川底の土を採取。損斐川は砂地でシジミが混じり、長良川は黒いヘドロ状だった。呼びかけ人の粕谷志郎岐阜大教授は、「ヘドロ状の土は酸素がなく、死の世界になっている。堰を開放すれば豊かな長良川に戻る」と話していた。

清流とメンツ

論説委員室から



全国豊かな海づくり大会が6月、なぜか、海のない岐阜県で開かれる。天皇陛下も出席し、3千人も参加するらしい。今年のテーマは「清流が、つなぐ未来の海づくり」。そこまで言うのなら、岐阜県を流れる大河、長良川が海に注ぐ場所にある、あの河口堰(三重県桑名市)を何とかできないものか。

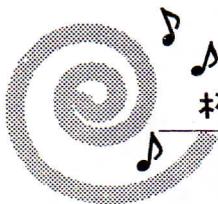
流域の市民らでつくる、長良川市民学習会が指摘している。

河口堰は作家の開高健ら地元外からも反対の声が上がる中、旧建設省が建設。1995年に運用を始めたが、水はごく一部しか使っていない。洪水を防げるようになったというが、ほかに方法がなかったか、疑問が持たれている。

海水と淡水が混じる汽水域の真ん中に堰を築いたため、豊かな生態系を傷つけた。ヤマトシジミは採れないし、川をさかのぼるアユの数も変動が激しい。干満の差がなくなり、ヨシ原も消えた。えさやねぐらの変化は鳥にも影響している。

そこで学習会は、ゲートの試験開放を提案する。朝日新聞もかつて提言したことが、アユの遡上期などに流れを復活させ、塩水も一部上流に入れたらどうか。上流の都市用水や水田に塩害がでないよう、監視しつつテストすればよい。

幸い、ゲートは可動式。水もあまり使っていないから、決断すればすぐできる。これまでできなかったのは、建設に何千億円もかけた役所のメンツがからむからだろう。ダム中止も難しいが、造った後、どうするかも難題だ。(伊藤智章)



校歌に歌われた長良川 ⑧

関市立板取小学校校歌

作詞／後藤 左右吉

作曲／丸山 春雄

一、緑ゆたかに 風ひかる

せせらぎに 今 おどる夢

この川 この道 この友よ

水となつて 清らかに

花となつて 明るく

板取小学校 力みなぎる

二、歴史かさねて 土かおる

ふるさとに 今 かかる虹

この山 この空 この友よ

杉となつて のびやかに

鳥となつて 自由に

板取小学校 あすへはばたく

緑に囲まれた美しい板取小学校は、美濃市で長良川に合流する板取川の上流にあります。地域の住民を先生に招き、地域の行事や自然について学ぶふるさと学習や、グラウンドに設置したバイクトライアスロンコースでのバイク授業などにも取り組んでいるそうです。かつて、板取村（当時）には長良川河口堰とセットになったダム建設が計画されましたが、婦人部を中心とした粘り強い住民の反対運動で村は守られました。

事務局より

長良川河口部の海と川の水が混ざり合う感潮域・汽水域には広大な美しい葦原が広がっていました。しかし河口堰の建設で、その9割が失われてしまったと報告されています。

4月25日に行ったヘドロ観察会の折、舟から見たわずかに残った葦の芽吹きも弱々しいものでした。川底は真っ黒なヘドロでシジミなどの生き物はいませんでした。にぎやかな鳥のさえずりも聞こえず、あんなにいたカニたちも目にする事ができない「沈黙の春」でした。

私たちは6月5日、6日に長良川の上流から海までの今とこれからを考えるために、「豊かな川から豊かな海へ—市民による「豊かな海づ

くり大会」を開催いたします。ぜひ、ご参加ください。

今後の予定

6月2日(水) 3時30分～

導水路はいらない！愛知の会
「住民訴訟・第5回裁判」
名古屋地裁

6月5日(土) 6日(日)

豊かな川から豊かな海へ
市民による「豊かな海づくり大会」

6月12日(土) 「住民訴訟」提訴1周年 総会・記念講演会 桜華会館(名古屋市中区)

発行：長良川市民学習会（「長良川に徳山ダムの水はいらない」市民学習会実行委員会）

代表：粕谷志郎／岐阜大学教授

事務局：武藤 仁／090-1284-1298 〒500-8211 岐阜市日野東7-11-1

<http://dousui.org/>（最新情報や資料などが揃っています。ぜひご覧ください。）

●私たちの運動はみなさんのカンパで成り立っています。賛同してくださる方はぜひカンパをお願いします。

郵便局口座番号：00840-3-158403 口座名称：長良川市民学習会